後鈔定集 後篇

中

No. 615
後鈔定集後編
冊 三 函 十六

L911
モ
5

後鈴屋集後篇中之巻

秋歌

本居春庭詠

初秋

笹はら露積の風はすゝしきも今朝をたゝなるこゝ秋は庭
引ゆ〳〵てゆくも志るき秋のそを神ゝとさめる露はあきの風

初秋夕

いとゝもむまゝ初秋の夕ゝなるあられ降る沙ゝ雨はそゝ

初秋露

秋きぬとめきく年はかゝるまてむすふう庭のあきちゝの露
あきゝぬとゝ夜の事葉よゝ〳〵露も狂あき戸おは庭のあきちふ

[illegible]はおもえぬ秋をそやうりてなくこゑも[illegible]と独よおもふ

田早秋

時きぬとおのれ[illegible]ほよりてこいそこゑ[illegible]秋のこゑ[illegible]

幽栖秋来

秋きぬと[illegible]てもすきの下露よ稽の[illegible]乃おとろこそ[illegible]

砂暑

そ[illegible]ちこよ砂あつきもこすれぬあつきはこそやうれこゑ[illegible]

七夕

こ川[illegible]れのあふせを待こゑ[illegible]なこゑやあのこゑ[illegible]

天川[illegible]やちこゑきぬ[illegible]ちこほふ[illegible]

たゝれそらはてゝ小一夜のあつまとかをてさこれきこゝのはきれ
ぬをつむなりきはかをいきのゝ後うゝもしてはかゝ
こゝ川うゝるうきせハなゝ子ゝ夢ゝかゝゝ一夜なれとも
天にいうゝやうはとゝれを年をつゝ川るゝ為なゝ雲

七夕別

うゝみあれや天の川ゝはふゝゝはゝてゝうゝる神のあゝ風
と月をつゝそれ神のゝうれゝまぬれゝふゝはをあゝはゝ衣

七夕雲

うれしさをつむゝ雲とゝ川ゝ雲の夜ゝいゝゝかゝ会はゝ
一とせをゝゝ結ゝゝ天ゝゝ川ゝうゝゝ雲はゝ時ゝゝやゝゝゝ会ゝ

七夕河

天川なるてゝあるをあしぬとも罪はあしをふれてみてうせし
あまの川こそてるうきせいとうき弁も幸きわてうふなとうれてそふる

七夕橋

天川とうひちゝてハ渡されも幸てみてかくるこうはくきはぞし

七夕船

わてしふゆさをてちほきあ契てとをなとたれてふはをめきあ

七夕草

志のまてきあのてあてしもれてうはきまの契うハ猪やてしき
たるさてうはゆ神てわてうてとるふゆをあの川系まれく小落

[illegible]

七夕鳥

[illegible]

牛女悦秋来

[illegible]

星夕言志

[illegible]

萩

[illegible]

萩風

おもしろくてくるあるいとのさむしきも狩ごろなるめ萩のとゝ風
吹きはらうくるきあれと秋風もさすがにやそよ〳〵庭のをきはら
秋風のふきはらはれや萩の葉よ屋ゝりてはら〳〵夕なるもむ
そよきてもの萩の葉風よはちりてはなるよ葉毒吉ちひきき
吹やうきさわ〳〵やつゝきいの歩きとおひとりれわ風の萩系

露底萩

けさはれもおのゝやとちと吹たらふ風をもうけむ露のをき系

夕萩

吹きはあはれをうになりさてくなるうれゆく萩のとゝ世

夜萩

よるさへ又なをあらはしこぼれまて彩そまさりよる萩の花

ちよろつきおなしあそれも彩きりて吟きくへぬ萩の上色

江辺萩

夕やそれ入江の浪を萩の葉よ言ふちそへてさわく陳こ雪

加江萩

ふるさを言する風も吹あきてかそのしきふるき彩は下をそ

萩

夕露のそをおそていそる玉はけそなそし庭の秋そそ

萩露

ゆりてはるそふ雪もいとそれて花すゝき月庭は秋さき

夕萩

月よいまうつろひ花も雪そうつろひまさりき庭の秋萩

いやまさる小雪さえ花いろそてタそれこそる庭は秋さき

萩盛

咲こもて花まいろやおく雪よりもてこほふ秋さきは花

萩移油

小萩原ろくまいろのいろそうつりもはき雪すりはそて

月前萩

こほふそもみつく雪もいろりくにあそれかつさき月の玉さき

庭萩

[illegible]

行路萩

いろこれをうしなはしめ[illegible]

萩映水

いろふかくうつる[illegible]

宮城野萩

きてゆきもとめきのくれをまつとうくみやきの[illegible]

薄

[illegible]

風前薄

花すすきいろかへやまぶきの人のそてもそめつる秋山のみね
にたちかくすそてのそらもやまぶきのむねをそよかせみしの露
こゝろ草はるてゝ秋ちきぬをはるゝふのこゝろ秋をこのをすき

落露

むすぶまもなくこゝ秋風ふきしきてちるこゝろを花のそてはなを
おもひなをしてやあひてや秋の秋はてをこゝろ秋とこゝろこてるもむ

薄似袖

人もかゝ袖とんとまちつゝやとそこのもかゝる露の小薄

野外薄

袖の露くらしやあくぬれてゆく風よ紅葉みだるのをすき

女郎花

めをとりの名のあはれむらくさをうゑてしをる体もらくさむ

をうゑたくしく人のとのいひさをれはやさよ咲はなしれいろもあやなく

月前萩

すむ月はあれはちるあきをうらみやすむ物とのまくさ葉

あれをなかめつきもうくさてちるるよれ月はたるの萩はうる風

蘭

花ごとをまきあとつゝもうほくゑ八秋ごとをうえてはるさきの

ふちをうゑとうぬきをてく秋のゆれをのちをさよ咲ほつむ

咲ほふ沼のをみなへしたをやめたちあきすてしこそてきちもむ

槿

紅なゝ色もかきうつすなれはうりもいろの雲のあさかほ

草花

いろ〳〵まみひろけてもまれ花まつろを雲もおくふむ

かゝるみしき一枝てゝちてきくもなくたちたゝ花さうかい

草花盛

おゝ雲もゝ花のそ雲れかるてちうかすそふみゝの八雲

月前草花

つゆのうる花のみしきのうるハ又史をうゝる月のあるそき

花のいろも月をやどしてあくるあけぼのの八重

水色草花

咲こころ葉をしてすきてもとけそよぎこそ

野草花

のこれをかきまくるおほうれとあそれかもなくさの花

なくさもかもなくさ咲ぶれこそてかきをとなきむさしれ糸

花とうま小萩のもしきはてをんとれく人をやさ萩みくのをすき

ねこ草花

ねきてあくきふものを出くしや花さくみくはなれしゆく

古語

秋をおきて時こそなけれ露も袖も露のこるゆゑを
はらひあへぬ袖にしてほすひる間も露のおもをそきき
かこつてもこなたのあくき秋の露ことゝもうるてかくるをを

風前露

ちるとうもむすんやうきき風のはるゝひゆく秋ちかき西

月前露

くれかゝる露もををみきおきて見やもちとる月はさらこま
風とわきてをなれ露のうるかひをみきてゝる秋のゝ月
ゝるとよを風とあはれも露をして文はうてゝをもる月をみ

庭露

[illegible]

野露

[illegible]

田上露

[illegible]

[illegible]

[illegible]

枕上露

[illegible]

きりぎすなき秋のおもひのたくをつくす秋きりぎすの声
うき世をそなる老の秋きりぎすもそてうちきる秋の声

虫

なくこゑも秋おさそふむ夕露をこゑ〻に庭のむしのなみだ
ゆく人のたもとのつゆもひとしほをなくれさふらふ秋むしのこゑ
なれなくおもむくれて鳴虫やおのゝなみたをこゑかやの露
秋虫もきそう秋あるあ秋きりぎすひるまきもれこつ〻にまく

夕虫

鳴こゑ〻にはるはるむしの声おくれけうる庭のゆふ露
あきちかやなみたをかむ夕露をたる葉よいそく秋むしの声

深夜虫

なきわびぬあさぢのほそぼそきく独寝さびしき夜の虫の声

暁虫

ふるゆめの覚もきえしに初夜ふけなくやうらむる虫のあはれ

きくにしらるるてをとてはきくにも独あるつきの夜ふかくして

閨虫

独寝ふるさとびたるかたしきの夜もすがらなる虫の声

虫聲随風

吹風にうつりもきこえてをちこちにあはれ虫の声

月前虫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨中虫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨後虫

むし[illegible]

行路虫

道のべやすゝきをけふ秋もまゝ[illegible]

野虫

秋ふかし今ゝ[illegible]

野径虫

[illegible]

禁示庵虫

[illegible]

田家虫

山田もる秋の夜をあかしかねてやうちほすむしの声あはれなる

故宅虫

いつとなくまがきにすだくこがねむしなにかはかなき音をなくらん

閑居虫

とはましの庵をしたはちよる夜ごとに人待むしのこゑぞ聞

旅宿虫

松風にあちこちとゑてまくらむすびうらふ秋のゆくうなり

枕上虫

おもひをばなぐさめまくのうのきりぎりす枕もとにぞ音をなくなる

閑路秋風

秋風をいかにまくらにたのまねとふくかぜのこゆるさくらの

野分

みちのくにかりのこゑなきてあらのもの　あきさきぬとて雲をみるかな

あれにけりうきやのこやのやまかぜ　けさはなにはのはちすなるらん

野分後月

いかくるをもとりてさしかくしみやまかぜ　庭のみくまをてらす月かな

秋夕

あはれ　月のなかめをちこちの数くをかりひとつにて　秋のゆくへ

をしみあきの秋のあはれはとこしへ　おきてやうる神の夕つゆ

[illegible]

秋夕雨

[illegible]

海邊秋夕

[illegible]

山家秋夕

[illegible]

田家秋夕

[illegible]

月

ら浪の声とまりおきなとゝめて今はやとるふいけるはゝみ
うきゝ雲はなみもわくらて秋の月あらはきゝ雲る新そゝ
さやけさいとゝはゝ雲はなゝ月ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ月新
みるひいまぬ人もゝゝひいさやけきゝはのゝゝれぬゝ月のゝけゝ
よのうきもみゝゝゝれてあゝゝゝゝゝゝゝゝ月はあやゝゝ
はゝれゝゝゝうゝゝ月なゝゝいなゝゝふ風ゝゝゝゝ月やゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝあゝゝゝゝゝ月ゝゝてあゝゝ秋のゝれ

上弦月

ゝゝほゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝ新なゝゝとゝゝ秋をゝゝゝゝゝゝ

待月

まちわたる月をつれなき山のかをうらめしのこそてえうもはうなし
ぬらしてゐる人のうらみをはらいつるをいそけ山おろしの月

深夜待月

ゐるまのゆくすゑ狂山のかをいてやうて待やとなるき秋のうれ月

欲お月

いてあらしえやかきの行くそれて山のかをゆるいつきみうれ月

望月

名もうるてくよみうをむ狂なをうしてえうもいつきの月の秋

遠夜見月

秋も尾ばかりつる秋のちかさ利るるぬ月よいるよりつ
ゝ月のそひゆくみをえんとふるまいるもやはるゝ
かのうなる是もそもかくれまては一筆もうゝ文月をえんな

剃月

秋ゝうなるを月もいとひてやなもむる新のふるはらも
なるをもあいとそてなるゝふあそれをそふるひくの新
神ふれ屋ゝかれていはも狩をみれいるの新とやそえる

明月

さやけきはまされうみうあきありて京ゝうひる秋のよ月

月秋友

少しくそもかくもあ月の新なれば秋のなかばとも秋とも

貴賤憐月

てらすらん秋の始めの月やいつまでの恋路も新すめるこゝろ

緇素見月

よもすがらなる月やもるらんやこゝろの底も立まつらむ

遊士行月

すむ月よ世きき様すらん行人も雲みまもるふ狩やうれむ

惜入月

わるふ公つゝをゝ様の松ゆれるふ山ゝゝ月新

八月十五夜

さやかなるこゝろぢなりとてとりたてゝ名をもち月の氣色を形なきこゝろのあらはれもてはやされて思ふ月のむかしいにしへ

九月十三夜

十五夜よりもみ月の光のまさりてあかるくてすゞやかなる光

庭月

名をれの庭に光をもうつろひて月をなつかしく庭のあきちふ

都月

すみわたる雲井もちかき光とてはるかに月のこゝろ高

山月

しられゝも秋のこゝろをよすゝ丹もこゝろふかくなる山路に月

[illegible]

杜月

[illegible]

谷月

[illegible]

鄙月

[illegible]

杜月

[illegible]

[illegible]

月の新のなごりの[illegible]

海邊月

[illegible]

浦月

[illegible]

流月

[illegible]

てゝ月の光をうけてしぬきみる路のいとやなくれたゝくを
岩ゝもうそゝ不志のきてむらかく路はすゝせよ紙のうへ月

開路月

あつきうや冥れ戸ちゝてすむ月のさしこ路はゝあるゝ人

開路曉月

あひ人はあるゝとゝ冥の戸は狂ゝとゝて門そいゝとゝあ

井月

なゝ〳〵ゝ月のゝやゝの西氣をうゝてつきうすれゝゝゝ
ゝむゝゝゝ井のゝのかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月ゝゝゝ

四月

秋のよれ月の尾ゝとゝれゆゝと後ゝ小田よ稲ゝ

名所のおゝていろつゝ秋の田よ尾ゝゝもつき月の新春

橋月

すゝゝゝる月をいゝよの秋ゝてゝゝれゝゝゝる宮居のゝ

ゝゝみゝゝる夏もあゝゝさるあるの大はゝのゝゝよ秋のよれ月

社頭月

よゝゝゝゝ雲ゝゝゝゝゝ秋の宮ゝをみゝゝ月よれゝゝゝゝ

古寺月

さゝゝゝゝゝゝゝ尾の秋よ夏ゝもよゝの花ゝゝゝゝ

閑居月

月をのこす夜ふかくてんまこうきこえかよすむいろりな

山家月

月ゝこれをこれなうきよをもちはうんこうてもある山きて
ちろよ忘夜といなるをこ紙の居かゆ月の新なれして
けこうをきて世のうきをのかゆをちろれ月をすあるふさと

故人月

きてこうれハ涙こうをて月新のすこうしをきこ志のふふこ
秋も狩むこうなこうれ山内よ光をちれ月内ふその

廣澤池眺望

おりしをやるむこうしもきこすむ原なこうはてなき廣原のいけ

月前星

ゆふしのほるやま川走となりて月はさしゆく星かけそへて

月前雲

入る月はあるかまちうくたよひてたれ拂ふする空はうきまく
あやしまれこころやすむむら雲は空の月をうけそへまかき
さそふあきさえそひめるいつちしてむら雲すさふ夜のさやけさ

吹風にあらそひつみてすむ月の空の路ゆくはあらきくと
入る新まさそへめ雲と吹風ものの夜の月はよそひもち
すみやるあふるはやくはとえしてはまうくらぬ雲はなきはし

月前風

月前のすゝゆゝ[illegible]てうきゝてうきゝふる[illegible]秋風
雲ハゝなよゝふう月して[illegible]月の後をみうゝうきみのあきゝ[illegible]
たるよハまやさゝふと[illegible]月はたのむ[illegible]

月前井風

[illegible]

月前木

[illegible]月[illegible]

月前玉

[illegible]

月前管絃

[illegible]

月に遠情

[illegible]

駒迄

[illegible]

水郷秋望

[illegible]

露

[illegible]

曉霧

[illegible]

夕雲

たちこめてなかなか拘はさひしさもなかめつるかな秋の夕暮

山雲

[illegible]

海雲

[illegible]

海雲

たちこめてあさぼらけ海もうちよせくる波へこそぬ浦の秋雲

関路雲

[illegible]

宋君霧

[illegible]

初鴈

きく人の袖も露の玉梓をうけてそきゝ初くる初雁の声

山初鴈

[illegible]

峯初鳳

郭こゆるこゑ絲ハ雲井乃春なるこゑよそはいきかめ初鳳の春

田初鳳

なみくさ〻おちくるもれを小田の春よりのうとまち初鳳の春

鳳

まちこがるまつ〻きまし〻うゑも彩霞をてくる春を待ちき

とひこゆる雲よりやうてふを田よ芝春まつるみ絲の初うゑ

春天鳳

れうてくてうてうをうをうてまなく〻そる清ゆく春のむつき

月前鳥

月前のうらみく山ぢうておのれもあつうそれ丁ら絲
うれきて明をたのそれと月前もしのなうれ爲やうつむ

羇中鳥

宿もうしたなうもむ元を殺ぬまてうそ丁ひうよ秋の夕うを

露中鳥

うをもぬきうやうもむうをうを殺うく明そやしの志く殺きぬもむ
おうをうもうをのまるく志きうしに元うもうつく原のひうれら
志元をまおのれまうひてうそ丁をあうをぬうを殺の秋の夕きう

四上鳥

[illegible]

小山田[illegible]

橋色鳥

[illegible]

芦色鳥

[illegible]

遠近鳥

[illegible]

峯とおもふ雲も門田なる丁もいかに問しつまとをきけ

鷹作堂

おもてをつゝみの玉籤の面影をかきつゝ移るたもと丁ゝ

丁ゝ絲のうきつゝ移る玉つきにつゝまれて文をよみもとゝ

稲妻

見とゝる雲葉の奥のおもゆゝしさ雲ちかゝふ山の稲つま

あらし神の奥ゝ髮やいろ門まのうゝふとすれとゝけもをゝ

鹿

なかゝくよきゝ行ゝれのゝ事をいつしゝとゝ中ゝれゝゝな

ゝ門おもき書ゝこゝ志ゝと行風はたゝゝやゝ門ゝ志をゝ引ゝ

[illegible]

[illegible]

曉鹿

[illegible]

朝鹿

[illegible]

夕鹿

[illegible]

夕日新つきせぬ山をつまこひまこそれていのるさをしかの

風前鹿

よるのかぜにきこえそめけるせなの音をもきくの稀薬めくる
いとゝふかくなるやくるさよふるまゝにあるきさをしかの
きこえしくる鹿よやこゆきたゝくよ行かせよるさをしかの
をしはくふみ移の光ふくひきて宗よ酒のゆはをしかの

月下鹿

つまこいてあなしいたれも月新のいてくるまきさをしかの
いつれかいあそれかいはき月新のこゝろふく山はさをしかの
月新もおなし秋なるいたれはさよ淺くもらぬさをしかの

霧中鹿

つまをしのなくきもそひて岩ふく雲にまよふ秋の夕霧

山鹿

ゆふはまて雲の底なる小やをしをれつまこひのこゑ
ゆすりぬる袖をこひてやたのそなれさやくこゑ秋の夕霧

野鹿

空神も狩衣ぬぎ秋の秋をとりけてつまこふ鹿の
ゆふ月夜ひとりねて寝ぬこゑつまこふ鹿の
ゆふ月夜

山家鹿

なれもうそれぬ手をみるよりなきてやとふるさをしられこゑ

田家鹿

[illegible]

擣衣

[illegible]

風前擣衣

[illegible]

月前擣衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜擣衣

[illegible]

深夜擣衣

[illegible]

擣衣遠

[illegible]

遠擣衣

吹きそふ風のをりしきてきてたゝまはゝの衣うつ
さゝ[illegible]あちこちなるあしてやさとこゝろ打ちうとくきこゆ

擣衣寒

秋風の身にしむいろをうつしてやきくもいきもの衣うつ

擣衣作方

いつこゝろきく我さへようもを縫ひてこゝろをこめ[illegible]

里擣衣

うつ里[illegible]のけしはうきとゝきあくふ更てきこゆる[illegible]
ちよきあくふ更てほの[illegible]今ひとつきこゆる[illegible]

名所擣衣

[illegible]

沢色時

なるあやる行へきそれて三時の松をけさうう[illegible]

なるき衣よ狩もつき勢めうき数やいろきけ[illegible]の時れ羽さき

鶉

[illegible]

故郷鶉

[illegible]

[illegible]

咲花のさかりにもいたるまでそれをうたるる白きそれ雪
さきかるるとときもわるる雪やおいせぬ菓花のあかるい

菓盛久

今よりハ又こる花もなかりけるやきそれ咲ほかるも
毛門をなかつきせぬ志きそれ花のいろそれ色ほかるる者れ

菓掛頭

いろそれ狂きしやせよ菓花ゆそれのいろそれうれしゆきて
ゆそれへてもたいめきしときそれなとさ髪のいろをそふむ

菓花色く

ことしふこれもほそれ菓花おのそきそれくさきこそれ小く

[illegible]

水色葉

[illegible]

紅石葉

[illegible]

紅葉

[illegible]

立田姫たちもとまらぬうつろふをいかにせよとの木の葉

とうかのよなみてをうたれて山姫のこれ葉のこころもとをけるもむ

尋紅葉

ちはやぶるかみのいかきをたづねておりかけもみち葉

紅葉一枝

かハ枝にうつりてとなりたてまつりてほつまつりしれる

紅葉未遍

ふりそてはそのほつまをはしをれるほつまつりもみちにる

ちもるいろもうやはは角はらてかりこもりくるあるはもみち葉

夕紅葉

あかく葉をおもひのいろとしはいろをさそはさる久しえ

雨後紅葉

さらしられ美しきしらたまもさしてをそふ秋のもみ葉

ふるめもの杉ふし榜とえぬまて時雨まはる庭のもみち葉

深秋紅葉

高ふかれるもる数もいろひてを秋ふき山のもみち葉

山紅葉

山の色もふかれなく葉をてもを高ふき秋のいろ

秋ふく高き山のひえてて葉もうすきいろをまし

きてをれはもみちふあるめをもなしなていろをを山ふけ山

[illegible]

谷紅葉

[illegible]

関紅葉

一入を待よりもてあつまる[illegible]

いろかうく降て行るれ[illegible]

[illegible]

名所紅葉

秋きりの名もいろえてをくやまあれ[illegible]

[illegible]

社頭紅葉

色深くそむるもみちのうきまにまくるゆなきあきの神垣

[illegible]

松

いろうすき松にうせもちくちしとあめのふやせまつはそれ[illegible]

松

そめやしきこの中にも秋とてもいかにまつはもみち葉

菊

いろそめていそぎもみくるつゆくなるをあれ独そそくる

[illegible]

庭鳴しとよみてなくねのすゑにまちゐるつまなきみち柴

秋夜長

おのかゐいくひ夏をこゑてもなほ秋のよはなかくゝれ

まちこゝそてあふ夜は夜の身えし木花はなかきあけくる秋の夜

秋奥

とひくれてふかき林のこのねはよりきこえてくる伝へし声

山路秋行

ゆふかけ分行袖はちりかゝる紅葉のちりしか下ゆゆ

ゆくさきもなほきそ河の山路あきふかくきゝつゝ紅葉

ふかきふかき声てまておきさ山ゆきゆく人の袖みちもみち

秋山

もみぢはおのしなうゝ秋山のいろとてこそ人のもとめも

秋田

けさはそゝろゝとうゝ田の秋風は穂のおとそもうちなびきて

秋霧

晴のうゝこゝひゝ夕秋のそれなりきみもあもつきあはうゝふ

秋聲

秋風はつまもちりひてはをもうゝなくゝこゝもさこゝろも

秋拾物

中ゝよ人はまゝこそてさひゝまれたゝのすきなゝうゝゑけむ

秋

それのゝる秋のゝ数も今いくつ在原の月はくもりてゝ

暮秋

きてふとてなきぬ鶴もうき秋のきりわかるゝそれ名残

なうあはれ〳〵夕の空もこれ哀や秋のうきりはあそれなるもむ

暮秋月

今いくつ在原の月とおもふもんかそゝやあさみのうら波

暮秋鳥

なきておりる波も哀とおくて面を下るひさむく秋そそれゆく

暮秋夢

めぐりつゝもみぢをしまれて行秋の美屋すゝめさて氏義

九月畫

雲もまゝいろあをきさゝ波秋を埋しもゝすゝふてやゝ

冬歌

初冬

[illegible]

初冬時雨

[illegible]

初冬霜

[illegible]

初冬落葉

[illegible]

初冬々月

[illegible]

山初冬々

[illegible]

山家初冬々

[illegible]

閑居初冬々

[illegible]

時雨

[illegible]

けくらしこゑくるところえて村雨の四方にたゆたふ山のせわたる
うつすきて一むら雨のほとは風さも見えてしくるゝ時雨哉
深山のはるゝ日は見えにしくれなゝし嵐や庭にてしくれなかるらむ
うき世にはふるとのひなしと見えにわたるやくやすくる時雨なるらむ
たゆみなくゆきはすきて空めなくかきくれわたるにしくれなかな
吹きれてゆくまゝにひて村しくれたえまもやまぬ雲の中川の夢

曉時雨

よにふるもなからくねさめはきこえて老のなみたもうちしくれつゝ
有明の月はつれなく雲よりも猶しくれてふるしくれかな
あけかたに猶きこえて枕にふねさめ風やふる時雨かな

朝時雨

行くてこそ袖やの板屋ほしけもかきこそ村雨なな

夕時雨

山のそれ入日のかくいてひかきこしつ雨なくもむ

夜時雨

さそそれ雨夜やあるこそうつ又もおこすきよ時雨なな

ふるこうもふそうきこれて月氣の雨ふるさよ時雨

寢覺時雨

独ねられたよもまもてやねおこ寝ぎ雨床こそ雨きあくむ

さやすきて寝ぎ雨ねこうきく独の涙ぼうふかも雨文

時雨晴陰

ひとかたにふさるあらしてやふかるる狩衣れてもぬれなるもの

行路時雨

時しもあるとあきふゆくるのそやすらめもりしぬれ
もりしぬれ又もふくきてたちそれ行ゆきぬ秋の雨
をこそうめ道もたもとくるるてふ行ほるもりしぬれ

瀧邊時雨

かきくらしぬそもたれのふる雨もたくもたたぬ山の滝つ瀬
おもかるまちそとはしれもりしぬれかるまみしき滝の白糸

朝時雨

風あらくふきて冬屋のむしろ打やぶりてもとりもなし

ふるさとをふるまの冥もゆめのかよ爰をとはきあさるゆふ雨

橋時雨

ゆきさそふ風のゆくへも家をこそ吹たてわるきはけそし

山家時雨

山里もよはうきをもなれ狐ハ狩さるめなく声しられて

むしろ打なまめき弁ハ世のうきふまにあて独のゆく山さと

落葉

ふるかふかふかるハ狩もうれろそてをむさこき風のもみち葉

ふるそてよさをうれてゆくなる風さそふ庭のもみち葉

ちるをふるてをしむる葉もちかくこゝのたよりふるしやもも
もみち葉は泊瀬き殺るゝ川ろそのこゝかなきはきもそれし
こゝ人のもろる入をきくとこなもつゝあ〜もみちなる也

夕落葉

てりそひ〜日影もはるて光山ろくこゝなきこゝ秋のもみち葉

風前落葉

もみち葉をきゝそふ光の山ゝをしむはるひのこゝろ秋ふけ
ちるそれて光のゆくもんのはるの吹えて〜こゝ秋はもみち葉

庭落葉

すきこゝあ〜秋のこゝ秋はこゝ庭こゝもんてちるもみちなな

[illegible]

[illegible]

水上落葉

[illegible]

谷落葉

[illegible]

瀧邊落葉

[illegible]

河落葉

[illegible]

ちるとかくるこの淵をえんにやはきたちそ稼る浪のもみ葉
なるらしゆくるをしとやせきとめておのれ川淵よりくるもみ葉

海邊落葉

山かふちをうつるもみち葉のこるくるやいつるのそほふ
るそ川うるはせるもみち葉かき孫くるこれはきるもの浪

閑落葉

はくるもみ葉をいそにかくしてこの葉とめぬ枝のあかし
もみち葉もいとまもなくてふの実ばかりなくいつくるの

橋下落葉

てる川浪もふかきの色うるちてもみちぬ葉をつるるあかし

閑居落葉

ふることけてあれこれ葉もかつちとうゑてこそ宮の面影

木枯

わそそれわををうしとやのもいはしの月のあらしもこ
ちはつかたえにさわきてときはかつうひとしぬ木枯の凡
さそふこきかきりハゝれの一葉ふやきもよきの度のあらし

殘菊

これなるふうゆきうきれ白菊やこのきとみとのつてなこも
みこれハ君のこつきこかあやこれなるふきをふそもん
いろとえて狂ことあう秋これなるふこほふうこのこれのこ葉

冬草霜

[illegible]

竹霜

[illegible]

篠霜

[illegible]

枯野霜

[illegible]

社頭霜

[illegible]

寒草

おほとうしみくもゐてはなれて行かき志もれ不しき
志ゐ猶志ゐすとなりてもれ志ゐを之葉之ちる枯て行なき

月前寒草

うれ文猶ゐ之ゐもけえて花すき志ゐをとゆるとて月ゐ

水邊寒草

ゐゐ新も猶ゐとうれおゐ志ゐやうれそゐ志ゐあきしれゐ之

野寒草

おゐ志ゐ志ゐ志も行なゐうゐけてゐ志のゐおひゐ源之れみ通

原寒草

たえ〳〵みえてもゝ今ハさかしく雪うもれてもむすばれやすらゝ

谷寒草

雪ゆきふる岩のひなゝ流るゝて氷まさるゝたゝみ乃名そゝき

枯野

秋のいろハいつちいろむ白ゝの雪小ゝ白ゝ小ゝ白ゝ近ゝ名ゝれ名ゝきてハ花ゆのゝ雪きゝ白きゝていろも白ゝ雪の雪ゝ

寒樹風

あゝ葉のちりふゝ後ハさびしきを吹ゝ雪ゝ名ゝの山ゝ名ゝ

ゝみも葉をさゝひ雪ゝて凡のゝも白ゝ枝ゝ雪ゝ枝ゝ雪ゝ

寒草

[illegible]

薄氷

あさ[illegible]むすふ[illegible]れとゐ[illegible]をもかき[illegible]ぬ薄氷[illegible]

[illegible]て[illegible]

氷

さゆ[illegible]

池水半氷

[illegible]

池上氷

いのゐはやくしきはてゝ流れもあへたゞかゝむすぶ池のうへより

河氷

山川や岩ゐ川さゝ[illegible]ゐてゐてなき浪よりくゐつゝ[illegible]

井氷

ひまもなくむすぶゐのゝ原氷もちゝ[illegible]くる山井のゐ

田氷

みゝゐ氷ゝもて小山田ハもゝゐ[illegible]ゐもきゝ[illegible]

利ゝて一ゐハ光のゐゝ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ小山田

冬月

霜とれとうめのふゝ新のさえわたり人せかとみれとうめ梅
おく霜の花とはうゝ雪うしはれ光をちらす梅のさむき
はなもるとれ雪ゆゑ白く雪のうへとをとゝふきゆゑ梅
雪ゆゑうゝふをとれ雪ふおのしかつ光をそしをちる梅なな

里冬月

ゆゝとよすむ新さえてうゝしはいとふ雨うく梅も見てなを

野冬月

おくしかふうめるもけるよれきうと霜の沼とふ梅迄の月新

閑冬月

立ゆゝしはれ新のあれるうををゝふしのふゝ川乃せさ

千鳥

さゝなみよりをうちてふ明なるハつあすくしき書ハたゝむ
明ちとの志ゑもまなよ千ち海去の治やき袁浦つてふし
ハつをそこ波ゝてらしむれもてほうゆくそれ千島武
浦つふなてもさひしくとう浪ゝ拂ゝみはうゝ明ちとう氣

曙千鳥

かのゝと浪れゝちのもんてそあてハつゝなきちよちゝ利明ゝち

千鳥聲遠

ゝうのうゝやなきハこ不アて変ゝくふゝゆく浪ゝよみ明ゝ
ハつゝちゝ波路ゝてゝ声ゝ浪ゝおきのふし海ゝちゝ明ゝち

岸千鳥

おのれさへ素あらけきて夜のあけぬるまゝに鳴ちどりかな

浦千鳥

たちあらはさわぐあさうら波のもれ入潮のとまりとゝれ

磯千鳥

なくあやもきりてこきしちどりの磯浪ぶりもやまぬうれ

水鳥

おくあをを打はらふ矢ゝ多毛はも羽も狩やみとうしなきし

恋ゝしあしのいとれくるこゝろ人ゝ玉もけ庵やこゝろかけてまし

水鳥驚伐

こほりきえをなかれし筏か川浪のおもひよりてやさわたるらむ

水鳥馴船

みなれ棹なきてあはれも友なきとなかよひなれて浦のかよひち

河水鳥

山かけも猶こほりてよとやなかれ江の河むきかへて鴨のさわく声には

湖水鳥

志かのうらやこほらぬかたに鳴く鳥もさはけはさわく浪のむらとり

淵水鳥

河の瀬は波はうけしとなれも宿る淵になれて友ねのをしやすむらん

霰

久しうさあらしかさそはきてまゐるの時あやうしかなむ
きゝてゐるそとはうちそけしきいの君やさそふ花なりん
一しきとゐるれきてきて庭の面を狂きみ和歌いかな

寝覚霞

ぬるまもわきめもなおふるくかへさるそれ歌いの君

草庵霞

凡あくうれとすれと歌いの君の唐ハ言もうそけ文

残鳥

鴉くきれ雪ふるよちきりやおくれきておつるうち田の鳥は一つ
おくれきて雪ふる中や雪をかしそ称の之のこゝろもかは称

衾

[illegible]

埋火

[illegible]

向爐火

[illegible]

炉邊閑談

[illegible]

なるきよを春ふなしてけしうふかくしひかれぬ程のうと

鷹狩

うつくしてゆくわうもめをよそをかをもうふをけきくこう
くれめそうるかりそけ夕雪よりすの雪をやをとおそし

網代

あしろおふなるれよるきてひをよりかくをまるをけ雪の葉

炭竈

よそをあふ雪をすくやくちしてけりそをもふ神のうと
面影をうつしをすくそふみやをまも花をとをの雪のすくうを
うれ夜のゆくるふをやを炭のくりハをまをれをとて

遠岸竈

[illegible]

遠近岸竈

[illegible]

神樂

[illegible]

待雪

[illegible]

うきてふる雪をあつめて行くすゑ數つもるなるゆき哉

初雪

今朝はまづ積るうわゆきふるとてふるとなく行かぬ度の初雪

雪

雪ふるかきねとてせくるのをつたむかをを見うらさてをやをのく降とはすれと度の雪見ぬさきはいかもつもるらんとて數かふる花ときつもりてゆくめあれはをを

ゆきふれはみやまをもれぬ風はなほしろしめ草もかれ

ふるつゝてゆくまくふををもふくる道をたのむたのやさ

淺雪

ふるとしとたてそれまでこ是事ふりぬるはつ[illegible]度のそれを
ぬるてらあをけの色はそのまふつもまもはくてこそ元乳
[illegible]のこまこうやとてむ後をこあとの[illegible]をのけそれ[illegible]せ
[illegible]ふる[illegible]ふることはこうの名まもてつもこふかきをこのあれきあ
かつこれて後よ[illegible]をもうき[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふきを度の初を
[illegible]しきはひこ[illegible]ふこ[illegible]ふ[illegible]しの度のくきはそれを

朝雪

[illegible]

風前雪

[illegible]

はたらふねのちうふ日をふれと狩ぬとうめをたまりうえ

松雪

久かたうゝ今ゝ一日のうけえてくるまり秋よつるの白雪

ふけゝ狩つもけうをふそゝけてやちふなもゆくれの松うえ

とゝうゝ狩ゝふあををのをたつも利ていとけうる松うえ

屋ふれ狩ゝをつむゝふゝをれのいやゝ浮きをたゆりうえ

ゆきゝれい一枝よゝ代やうをれ屋の松うえ花さきふゝも

竹雪

ふゝつゝたゝをゝきゝ一つのなゝあゝ利ゝをたゝ年

庭雪

中垣のてすりにかゝりもてかきわなるあれ庭のしらゆき
狂いくつもる数をなくあてら山ちとてぬきうけの白ゆき

籬雪

ふりつもる庭のまさきをけさこそはのうふもとやとつもる花

窓雪

ふるみやとふる夜も消てなうくふまてうとつもる窓の白ゆき

行路雪

狂ふくもうつきいつよりふるゆくあやうむ路のうちゆき

路雪

ふりしく世の路をゆ狂てふこそ人はゆきやすとそむ路の白

山雪

[illegible]

山路雪

[illegible]

谷雪

[illegible]

江雪

[illegible]

閑路雪

ふるとつめは戸さしあけ代もうえてゆきくゝまる雪は雲山

橋雪

おきわくゝ氣とはうゝ初雪の雪かゝとしるかきくきれ橋

社頭雪

ふる雪とぬきとちかひ後アてゆきかゝる家の雪をぬるまくふあゝもみとりもそうて梅柴しろきもこのゆうき後雪の公ゆふうて雪とれしこのこをいのるもあれさき柴

閑庭雪

さゝ人のなきうゝ小さい後まくふ話雪ゆきれなうなわ紀

故郷雪

[illegible]

古寺雪

[illegible]

雪中友

[illegible]

雪中待友

[illegible]

ふるさとなれば契りし人いつしかなくてまれなる雪をかなしみ

雪中眺望

うれしきまれにいかなる人の移ひなくてもたれそまいとつあなるふ

雪中述懐

ふるさとをもとるまをとるふるゆふつもるとしをきてあれき

ちとせつる家をもあれはこの雪をいとくれなるひて

羇中雪

ふるさとをとる旅路なるにいとつとくもゆきはみちなるまし

早梅

ゆくとしはまをとてこれそはまるをはるはるはふ梅のそれ花

常なるあさうそ梅の花たるふさきて川を書なるる

雪中早梅

うゝひすもきなるあかゝふてをふうゝれてなふ梅の花

雪中待春

とけそめむ雪もいかとうゝてはゝ春まれの戸はをのゝれ

花とのゝつもるなるあふ春をまれとうゝ志ゝ山ゝ

冬ゝ朝

わきいそむ秋やいとうゝ移きて冬ゝもゝ山ゝ雪野のゝ

冬ゝ夜

まれ人ふ猟もつしなゝ此屋そ世夫ゝ志ゝ山ゝ秋やのゝ

久々山

ときはなれてもとる杉ときさびしさの秋かなるめをうれのやさ
しく若も杉きそらて冬はうつりさるうめをかをる山

久々園

ふるめるとをるれをとれ八重山をうけついそくひうゝ月冥

久々田

ふるひるわくもをり山田もをる蛍のうゝ人なりや秋をぬそ
引すてしを田乃ひるなふそのまゝふ秋冬うゝてはるさびさ

久々枕

冬はよハすきるれ九のなゝけもたうひてさもき秋やの山枕

冬鐘

[illegible]

佛名

[illegible]

追儺

[illegible]

歳暮

[illegible]

[illegible]

歳暮雪

[illegible]

雪中歳暮

[illegible]

學者惜年

[illegible]

おそきとうむとていとてとしのくれこそあかれなれ

歳暮鏡

ちりぬるかしらの雪はつゝ流つゝ年はゆくとはなれな

歳暮鐘

きくとふとひあうのきこゑの年はふをつくとはなれな

歳暮夢

はるなくて夢ゆくとはおもひねのみもひとはは秋のゆめ

こゝろひゝ年秋うせて一こゝせの夏を片くむ秋やの山ゝ

三重県立図書館
140175480